International Cooperation Center for
Agricultural Education, Nagoya University

ICCAE news

No.10 2005.1.31

名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成17年1月31日発行 第6巻 第2号（年2回発行;通巻10号）

発 行／名古屋大学 農学国際教育協力研究センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
TEL 052-789-4225（受付） FAX 052-789-4222
http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~iccae/index.html
e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

オンライン教育のための カリキュラム開発

農学国際教育協力研究センター 第６回オープンフォーラムを開催

（2004年10月1日）

プロジェクト開発研究領域 松 本 哲 男

農学国際教育協力研究センター（ICCAE）は、10月1日（金）「オンライン教育のためのカリキュラム開発」をテーマに第6回オープンフォーラムを豊田講堂第1会議室で開催しました。

今回のフォーラムでは、9月27日から30日まで開催された第15回アジア農科系大学連合（AAACU）隔年会議を目指して、生命農学研究科とICCAEが共同で研究・開発してきた「AAACU加盟校間の遠隔教育のためのeラーニング・システム」を実際に運営していく上で問題になる点に焦点を合わせて、討議が行なわれました。フォーラムにはAAACU事務局長アルセニオ・バリサカン博士、AAACU副委員長シーファ・チェング国立中興大学農業資源学部長、イェヌ・ワン国立中興大学教授をはじめ、この一年間、ICCAE客員教授・研究員としてカリキュラム開発の研究に携わってこられたリタ・ラウデ フィリピン大学教授、エディス・セディコールSEARCA部長、ツィリン・チェン国立中興大学助手の皆さんと、生命農学研究科の関係者が出席しました。討議は、eラーニング教育に加えるべきコースの選定・カリキュラム開発、単位認定制度、受講生登録制度、授業料、講義方法と著作権、コース内容の評価方法、の項目ごとに行なわれました。当面は相手大学の担当教員との間の個人的な対応で運営するが、2 年以内に組織的対応が出来るよう、項目ごとにガイドラインを明確にすることが確認されました。

オープンフォーラムの討論風景

オープンフォーラム参加者

農学系遠隔教育のための eラーニング・システムの開発

第15回AAACU隔年会議を開く

（2004年9月27日～30日 於名古屋大学）

ICCAE客員研究員 陳 姿 伶
（台湾・国立中興大学）

ICCAEは、第15回アジア農科系大学連合（AAACU）隔年会議を9月27日から30日まで、生命農学研究科、生物機能開発利用研究センター、AC21と共同で開催しました。「アジアにおける農業・生物産業向け遠隔教育のためのeラーニング・システムの開発」をテーマに掲げ、野依記念学術交流館で開かれた今回の会議には、アジア14ヵ国からの44名を含めて200名を超す参加者があり、盛会でした。

会議では、国際的交流と協力、草本生物科学、高等

（2ページ目上段に続く）

（1ページ右上段より続く）
農業教育と地域開発、遠隔教育、農学カリキュラムと人材の開発、eラーニング、ICT準拠の教育について発表された他、台湾、ネパール、フィリピンからの参加者による国別報告セッションが持たれました。

会議を通じて、eラーニングは高等教育と関連させて様々な利点をもつことが確認されましたが、AAACU内で学生交流プログラムを強化するための戦略としてeラーニングをうまく活用するうえでは、さらに検討すべきいくつかの課題が残されていることも、明らかになりました。この結果を踏まえて、加盟大学は、最新のeラーニング・プロジェクトを走らせてみて出てきた問題点を分析し解決するために、隔年会議後１ヶ月以内に対策委員会を設けることに同意しました。隔年会議の最後に声明が出されましたが、これは次のウェッブサイトで参照できます。
http://www.nagoya-u.ac.jp/aaacu/aaacu-e.html

第15回AAACU隔年会議　参加者

AAACU加盟大学よりカウンターパートを招きWeb CT Vista講習会を開催

（2004年6月13日～19日）

プロジェクト開発研究領域　佐々木太郎

ICCAEは、6月13日から19日までの1週間、生命農学研究科と共同で、本学教員とAAACU加盟大学のカウンターパート（C/P）教員を対象とする、eラーニング・コースモジュール開発のためのWebCT講習会を開催した。今回の講習会の特徴は、①WebCT Vistaという最新バージョンのソフトウェアを教材に採用したこと、②AAACU加盟大学からC/Pを招いたこと、③WebCT講習会の開催とC/P間でのコースモジュール開発を同時期に行い、短期間に集中的、効率的にeラーニング・コンテンツ作りを行えるようにしたことである。

講習会では、最も基礎的なWebCT Vistaに特有な画面名称を覚え、学生としてWebCTを体験することから始まり、デザインの基礎、セクションの構築方法、ツールの追加、コンテンツ・モジュールの作成、テスト・課題の作成という応用的部分まで、WebCT Vistaの実践的な運用技術を効率的に学習した。

本センターの2000年度客員教授だったセディコール先生（SEAMEO SEARCA；東南アジア文部大臣機構高等教育研究地域センター）のご尽力で、本学のeラーニング・コースモジュール開発担当教員のC/Pの人選がAAACU加盟大学各校で進められた。その結果、ムハマド・ナイム（ガジャマダ大学、インドネシア）、ボスタン・ラジャググ（同）、ピンチー・タン（中興大学、台湾）、ロドリゴ・セビドス（レイテ州立大学、フィリピン）、スダワン・チャイソムシー（カセサート大学、タイ）の５教員を講習会に招くことができた（インドネシア・ガジャマダ大学のC/P教員２名の滞在費はICCAEが負担）。なお、ICCAEではこれまでに、チェンマイ大学（タイ）のヌッタ・クアンプラサート、マレイシア農業大学のノリハン・サラの両先生を招聘し、生命農学研究科のC/P教官と共同でeラーニング・コースモジュールの作成を行っている。今回の講習会を通じて教員間のコミュニケーションが積み重ねられたことから、AAACU大会に向けてeラーニング・プロジェクトの取り組み気運が高まったものと思われる。

今回の講習会の一部として、情報連携基盤センターの梶田将司助教授の科学研究費による2日間のWebCT Vista講習会を組み込ませていただいた。梶田先生のご好意に深く感謝申しあげたい。